

Daito Chemix Co., Ltd.

快適でより豊かな 社会づくりのために。

ダイソーケミックスは、「快適でより豊かな社会づくり」を企業理念として掲げています。

また、一步先をゆくスペシャリティ・ファインケミカルメーカーとして、変わらない思い「グッド マインド」「グッド パートナー」「グッド テクノ」という3つのキーワードを全社員が共有し、自らに与えられた使命を誠実に果たし、持続可能な社会の実現に向け、日々
の業務を遂行しています。

これからも常に次代を見据えながら、時代が求める新たな製品・技術開発に努め、
全てのステークホルダーの皆様と社会に対して新しい価値を創造してまいります。

Good
Mind

Good
Partner

Good
Technology

Contents

01 オープニング	ダイソーケミックスの理念	01
	トップメッセージ	03
02 価値創造ストーリー	価値創造の歴史	05
	価値創造のプロセス	07
	諸資本	09
	コア技術	10
	中期経営計画	11
03 事業戦略	事業概況	13
	電子材料事業	14
	イメージング材料事業	15
	医薬中間体およびその他化成品事業	15
	環境関連事業	16
	CSR基本方針	16
	研究開発	17
	DAITO CHEMIX NEWS	18
	各事業所の取り組み	19
04 SDGs・ESGへの 取り組み	環境への取り組み	21
	社会への取り組み	25
	コーポレート・ガバナンスの推進	29
05 データ集	財務ハイライト	33
	株式情報・会社概要	34

編集方針

社会の発展に貢献し、社会の期待に応え、社会から高い信頼をいただける会社になることこそがCSRであると考えており、ダイソーケミックスの企業活動全体をご理解いただくことを目的に発行しております。

〈報告対象期間〉

2022年4月1日～2023年3月31日

当レポートは、2022年度の活動を中心に報告していますが、一部2023年4月以降の情報も含まれております。

〈発行〉

2023年10月(次回発行:2024年10月)

〈報告対象組織〉

原則としてダイソーケミックス株式会社を対象としており、財務ハイライトなど一部の情報については関連会社も対象にして報告しております。

〈参考にしたガイドライン〉

環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

ISO 26000:2010 社会的責任に関する手引 SDG Compass

人財と技術を力に、社会課題を解決する 新たな価値の創造に挑み続けます。

1938年に大東化学工業所として創立したダイトケミックスは、時代を取り巻く数々の課題に向き合いながら、人々の暮らしの豊かさに貢献する化学メーカーとして発展し、成長してきました。

近年ではますます社会問題が激化しており、コロナ禍を経て、資源・エネルギーの持続可能性、気候変動、人口増加による食料・水不足などの社会問題にどのように貢献できるのか、企業としてのかかわりが重視される時代となりました。当社はこれまでと変わらず、時代の変化を読み解きながら事業を推し進める中で、常に化学メーカーとして安全を第一に置き、サステナブルで効率的な工業化技術に磨きをかけ、新たな価値の創造に挑み続けてまいります。

2022年6月24日に私が社長に就任して一年が経ちました。当社が継続してきた安全・環境・社会貢献への取り組みを受け継ぎ、新たな視点で社内外を見つめて中長期的な視野を意識しながら企業経営に取り組んでまいりました。

業績としては、新型コロナウイルス感染症による影響の反動に伴うディスプレイ関連材料の需要減少、エネルギー価格や原材料費の高騰などの外部環境の影響を受けた変化の激しい一年でした。当社の主力製品である半導体材料、ディスプレイ材料、イメージング材料は社会を豊かにする必要不可欠な材料であり、中長期的な需要に備えていく思いに変わりはありません。電子材料業界は変動が大きく厳しい時期もありますが、この間に大型設備投資と人材確保を確実にを行い、質の高い社内安全規程を時代に合わせて見直し、遵守することを基本に、社員の健康と安全を守る環境づくりにも積極的に投資しています。

今後も高い技術力とスピード感あるサービスで継続的に材料を供給し、半導体など電子材料の受託製造を軸としての企業価値を高めるとともに、社会貢献と責務を果たしてまいります。

すみとむ あけのすけ
代表取締役執行役員社長 住友 朱之助

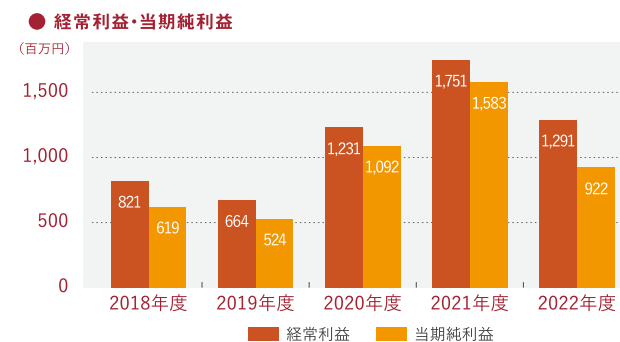
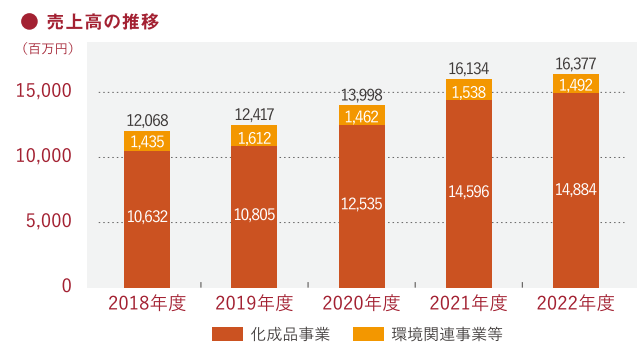


外部環境に影響を受けながらも、中期経営計画策定当初の目標に近づく

2022年度は、売上高は前年比増となりましたが、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益に関しては前年比減となりました。日本経済は、新型コロナウイルス感染症に対する経済活動への制限の緩和などにより、緩やかに持ち直しているものの、感染症の再拡大、エネルギー価格や原材料費の上昇、外国為替相場における急激な円安および各国金融当局の政策変更など、先行き不透明な状況で推移いたしました。電子材料の半導体材料は、一部に在庫調整の影響はありましたが、前年に引き続き、データサーバー、5G高速通信、車載用などの半導体需要の増加により堅調に推移いたしました。フラットパネルディスプレイ業界は、巣ごもり需要の反動、世界的な景気後退により、液晶・有機ELディスプレイともに需要は低調に推移いたしました。写真材料は、コロナ禍からの回復傾向が継続し、インスタント写真の需要が回復いたしました。印刷業界で

は、ペーパーレス化などの動きにより、縮小傾向が継続しています。医薬品分野は世界医薬品市場の拡大が継続しており、低分子薬も再び活気を取り戻しています。化学品リサイクル分野では、電子部品関連が活発な動きで推移いたしました。引き続き産業廃棄物のリユース、リサイクルへの関心は高くなっています。

2022年3月期の業績を勘案し、2022年5月に中期経営目標を上方修正いたしました。その後、ディスプレイ材料や半導体用感光性材料などの電子材料の需要低迷の影響を大きく受けたため、2023年3月期までの業績および今後の当社事業分野の需要などを総合的に勘案した結果、中期経営計画の2023年度(2024年3月期)連結経営目標を下方修正いたしました。2024年3月期の連結業績見通しにつきましては、売上高190億円、経常利益6億円、親会社株主に帰属する当期純利益3億円を見込んでいます。



人財と設備への積極的な投資で、将来の発展につながる土台づくりを

当社は、企業理念にある「快適でより豊かな社会づくり」を実現するために、『一步先をゆくスペシャリティ・ファインケミカルメーカー』を目指し、中期経営計画「DAITO VISION 2023」を推し進めてきました。サステナブルな社会実現、顧客満足度の向上、自社製品の開発などを基本方針に掲げています。5か年の中期経営計画の最終年を迎える中で、上半期までは各分野とも需要が好調でしたが、下半期はディスプレイ材料を中心に需要が減少し、中期経営目標を下方修正しました。このような状況下でも、成長投資として掲げていた設備投資、研究開発、人材採用について、いずれも目標を超える投資を実現し、将来の持続的成長の体制を整えつつあります。特に人財は当社が成長していくための重要な資本です。コロナ禍での困難もありましたが、人材育成には積極的に投資を継続しています。新卒採用、そして、キャリア社員の採用を継続して、当社の未来

を担う人材確保と育成に力を注いでいます。また、健康経営にも尽力しており、2023年4月に健康経営推進委員会を発足しております。若手社員との対話も積極的に増やすことで、ダイナミズムを生みだせるよう、中長期的な企業成長につながる基盤構築に取り組んでいます。

● 持続可能な社会づくりへの取り組み

1	関連する法律等の遵守
2	開発～廃棄までの各段階における環境汚染防止
3	省エネルギー・省資源や再利用による温室効果ガスの抑制
4	環境負荷物質の低減、廃棄物の削減
5	環境マネジメントシステムの継続的改善
6	全社員への周知

多様化・高度化するニーズに挑み、応え続ける成長企業として

世界は大きな時代の転換期にあると言われています。不確定で混沌とした時代にも臆することなく、多様化、そして高度化するニーズに応えるために、社員全員が行動指針「すべての人を顧客と考え」

『創造と革新に挑戦し』『迅速に対応する』を高いレベルで実践し、果敢に挑戦して企業価値を高めるとともに、株主への安定的な利益還元を目指します。